

花譜八笑人

上

13
3094
1



村田

へ13
3094
1-15 75

3094
1

花八笑人序



曆代杖入将神を見らるる吉方と記て

萬事を行へが為たると八笑人と聞て

花曆代志々々何房をうけく戯作

笑らるるが為なり。夫を惠方が年任神

果ハ阿房の八笑人惠方果報の序て

寄

片々たる山麓のほとけさま

吐る花見の連乃一解が現ぬうと就き

さる氏観るが如くま繼りしと在く

滌亭鯉夫なるも我もく 松尾の里

乃根ありと成ると出く。谷中お谷の

底をく穿つる。流の川を流飲め酒を

傾け不忍の他山も暮の調子を思ふ。

飛をの山り今日成てて日暮の里小

晚鐘を恨む。何が山小昔成るのびてハ

道灌山吹破れと成るど実妹たのこ

地只時たのこ皆是酒小就れは小

うかふ人象なり。実るも世とま去乃

夕暮櫻を花の君子に非社生るに向ひて

音聲のひだは成りともんご。少便を

花乃山ゆまのより野之小ま祓はらへ此大
 江戸の華はなを志ます。次つぎにお向むかひの
 花見はなみは日記にっぴを四季しきの
 中なかを志ます。并な社系しゃけいの豊とよ丸まる正ただ々々の
 華はな式しきは定さだまらば江戸の物もの不ふ記きと志ます。

琴通舎

英賀

ハモヤアハ

細こううままりり

橘たち蔭かげ丈

まのめめききとと

花はなゆゆららななわわ

りりんんじじののり

日ひ々々の

里さとの

一いっ杯ぱい堂

たたししななままやや

鳴な保

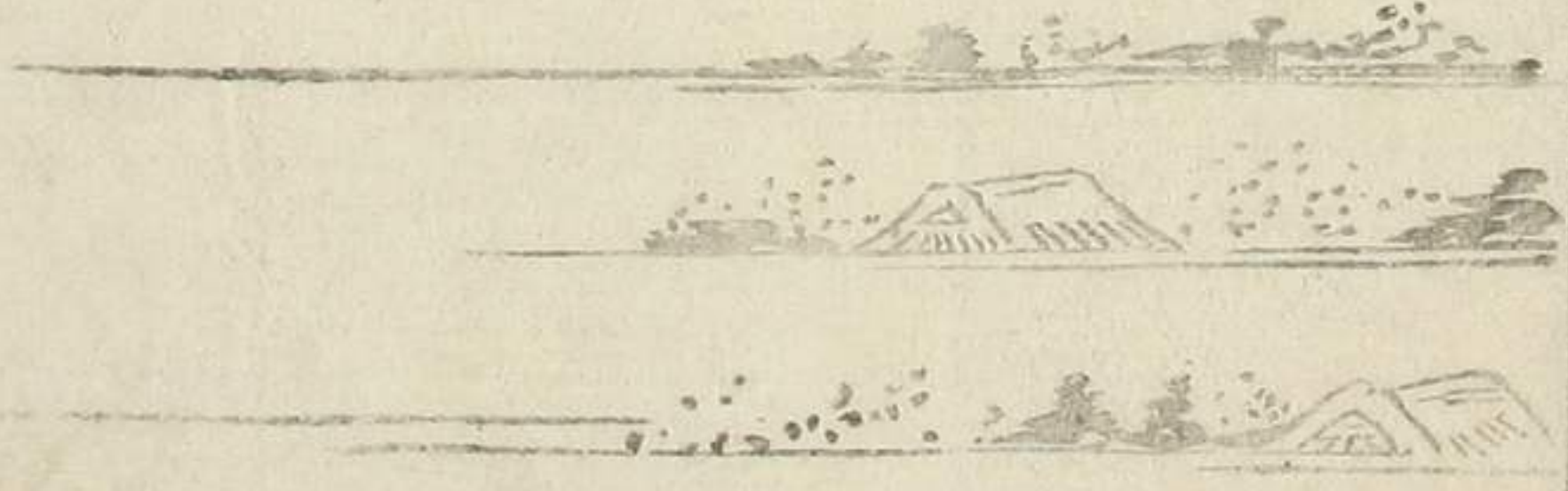
花はなのの節ふし

花はなのの心こころちち

日ひ々々の里さとの花はなのの心こころちち

そそううままりりかかははららるる

琴通舎





壺挂樓 月弓

こころみりて

ささやかしらふ

おき山

ひびくてたのり

いぬ石と

松籬堂

鶴子

倒不瀬と

かきしらけあかり

おき山

まのあはれあかり

いぬ石と

二喜

おき山

おき山

あき山

さよふまらあき

あき山

らんか



花前亭

友頼

おき山

おき山

おき山

おき山

おき山

琴春亭

根松

おき山

おき山

おき山

おき山

おき山



為永正輔

その月もいづれかの池の端に
吹の矢とらふ名たれつげん

英朝森華持

今日とらふあまのぬきめは成て
その日とらふは花より花をん

そのとらふ

もふのり

花のり

花のり

人

花のり

花のり

花のり

花のり

花のり

琴通舎



伊都茂鹿文之滑稽

龍亭鯉大編

文政三年かのえたつ乃新編目録

加嘉詩凡二冊五十九帖

大せのりけのそ

はとこおいて万がめ
はとこおいて万がめ

大そうだんうちの方

こぞりしより
こぞりしより

大らんおやのあ

はとこおいて万がめ
はとこおいて万がめ

としぐらこのり

全部



たつこのり

全部

たのけりけのそ

はとこおいて万がめ
はとこおいて万がめ

たいそあーのこと

はとこおいて万がめ
はとこおいて万がめ

たいへんげのそ

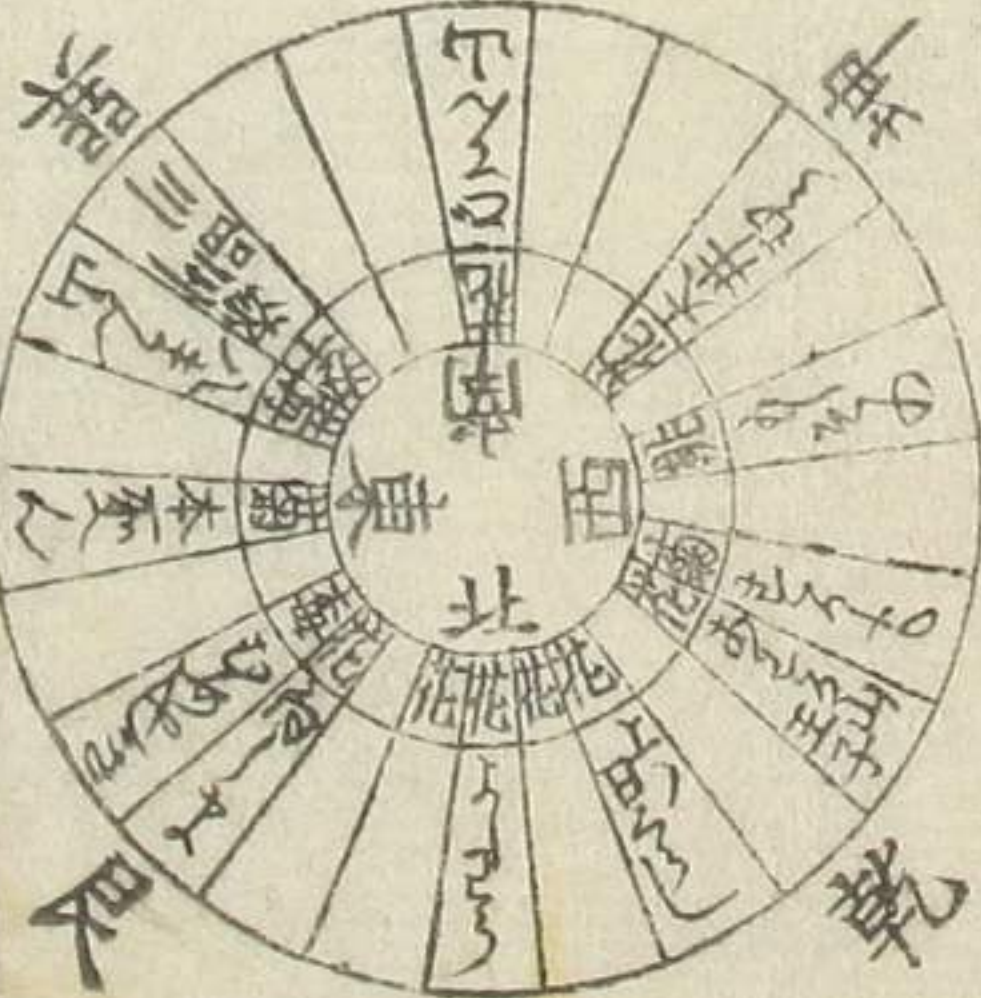
はとこおいて万がめ
はとこおいて万がめ

こつこつんこのり

はとこおいて万がめ
はとこおいて万がめ

こつこつんこのり

はとこおいて万がめ
はとこおいて万がめ



出法 春ハハ
夏ハハ

春ハハ
夏ハハ

春ハハ
夏ハハ

春ハハ
夏ハハ

春ハハ
夏ハハ

春ハハ
夏ハハ

春ハハ
夏ハハ

春ハハ
夏ハハ

春ハハ
夏ハハ

春ハハ
夏ハハ

春ハハ
夏ハハ

春ハハ
夏ハハ

春ハハ
夏ハハ

春ハハ
夏ハハ

春ハハ
夏ハハ



花の木の
 長州
 雲の色
 咲
 白ふ
 願の村

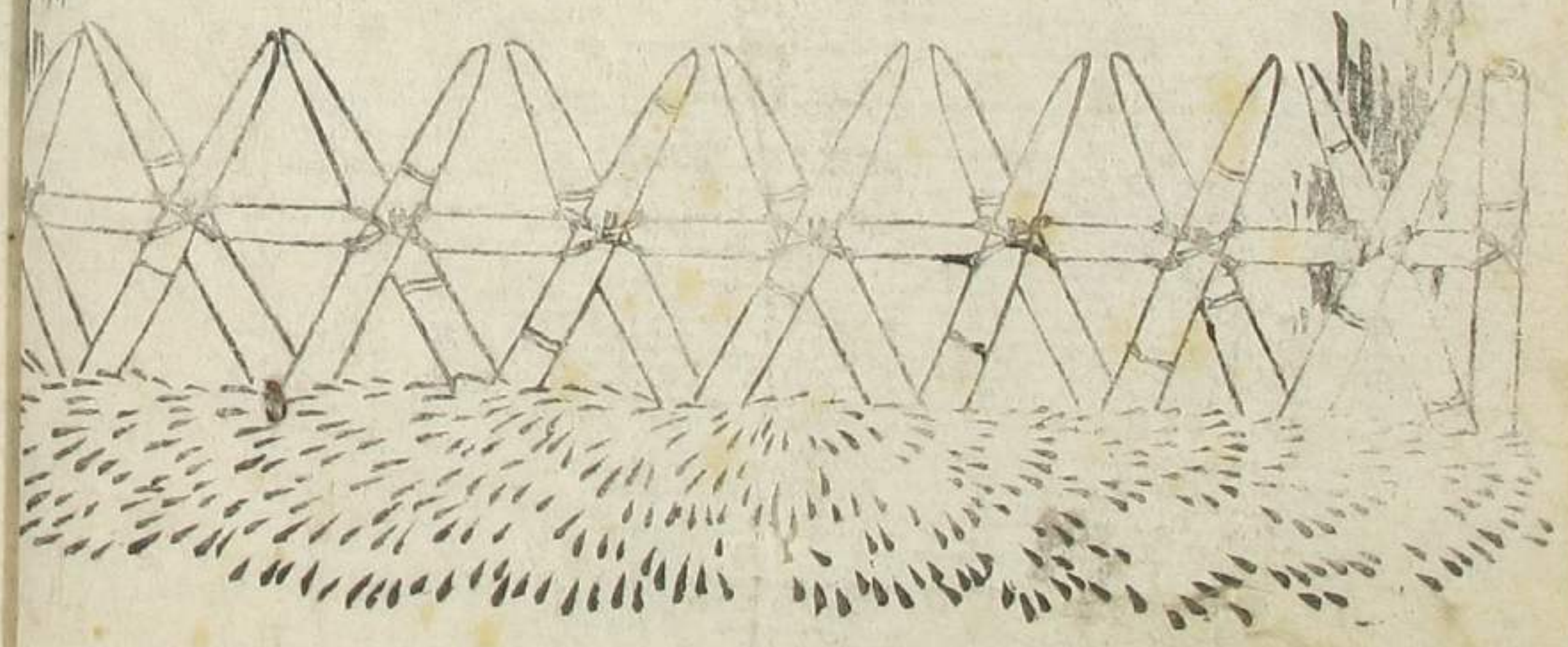
唐縫舎
 光
 花
 下戸の
 日
 真

春 復 焮 冬

ハ笑入遊行日

庚辰年の飛鳥山の花の雲
 辛巳年の角田川のさか萩
 壬午年の高田の里の螢の光
 癸未年の内國川の涼の夕
 甲申年の百花園の秋七草
 乙酉年の海晏寺の楓の音
 戊戌年の青樓の夜の雪
 己亥年の浅草寺の年の市

右追々出版



欲謂之水則漢女施
 粉之鏡清堂欲謂
 之花亦蜀人濯文
 之錦繁爛



こ流成俗方りやいふこといふを
 れき法上人はよ承承造り不
 それをいふこといふ承承俗人の俗
 をいふこといふ承承俗人の俗

為永正藏

もんまや成祝

廣初此日
 聞くこといふ承承俗人の俗

林至正藏

半波を八表を「コウク内々うだまぶ牙」
四々まるとまのり

「あんちホとまき不才をのり」と孔明を討ふとふコレはく

「天へ向つてつをを吐が河て我他へかふる道程さ

「イヤおたんそふあて成やよふ」あまがあんまりと愛さる

「からころから」トのりしとまのりの方より半八と云ふ

「唇うくちまのり」とまきとんさる「美女く」女うく

ト云ふたてのりまをひきく「あか河のり」ト時をまきとんさる

「あか河のり」あか河のりまをひきく「あか河のり」ト時をまきとんさる

「あか河のり」あか河のりまをひきく「あか河のり」ト時をまきとんさる

「あか河のり」あか河のりまをひきく「あか河のり」ト時をまきとんさる

「あか河のり」あか河のりまをひきく「あか河のり」ト時をまきとんさる

「あか河のり」あか河のりまをひきく「あか河のり」ト時をまきとんさる

「あか河のり」あか河のりまをひきく「あか河のり」ト時をまきとんさる

「あか河のり」あか河のりまをひきく「あか河のり」ト時をまきとんさる

「あか河のり」あか河のりまをひきく「あか河のり」ト時をまきとんさる

「あか河のり」あか河のりまをひきく「あか河のり」ト時をまきとんさる

「あか河のり」あか河のりまをひきく「あか河のり」ト時をまきとんさる

きり きり お後が お後 出 出 身 身 ごと ごと 一 一 ナ ナ 三 三 人 人 しか しか あり あり ま ま 口 口 ぞ ぞ くの の ち ち ゃ や へ へ 皆 皆 ぞ

あ あ の の 後 後 へ へ 引 引 け け ぬ ぬ ぞ ぞ ト眼七率八安渡をう三人二名へかりあり 疾くを捕ふす引まきしハ御起し下す 左 右 上 下 三 勢 云

お お 後 後 ぞ ぞ は は 連 連 中 中 で で 花 花 見 見 茶 茶 番 番 南 南 と と 号 号 して して 右 左 上 下 三 勢 云

お お 家 家 前 前 へ へ 上 上 二 二 階 階 へ へ 出 出 て て 中 中 へ へ 入 入 り り け け ぬ ぬ ぞ ぞ 右 左 上 下 三 勢 云

今 今 一 一 人 人 ぞ ぞ 上 上 へ へ 向 向 け け ぬ ぬ ぞ ぞ 右 左 上 下 三 勢 云

お お 智 智 計 計 を を 得 得 ぬ ぬ ぞ ぞ 右 左 上 下 三 勢 云

お お 智 智 計 計 を を 得 得 ぬ ぬ ぞ ぞ 右 左 上 下 三 勢 云

お お 智 智 計 計 を を 得 得 ぬ ぬ ぞ ぞ 右 左 上 下 三 勢 云

お お 智 智 計 計 を を 得 得 ぬ ぬ ぞ ぞ 右 左 上 下 三 勢 云

お お 智 智 計 計 を を 得 得 ぬ ぬ ぞ ぞ 右 左 上 下 三 勢 云

お お 智 智 計 計 を を 得 得 ぬ ぬ ぞ ぞ 右 左 上 下 三 勢 云

お お 智 智 計 計 を を 得 得 ぬ ぬ ぞ ぞ 右 左 上 下 三 勢 云

お お 智 智 計 計 を を 得 得 ぬ ぬ ぞ ぞ 右 左 上 下 三 勢 云

お お 智 智 計 計 を を 得 得 ぬ ぬ ぞ ぞ 右 左 上 下 三 勢 云

お お 智 智 計 計 を を 得 得 ぬ ぬ ぞ ぞ 右 左 上 下 三 勢 云

と申す所は...
先日の...
初月ハ...
あんとく...
肥後...
安波...
あはれ...

不逞...
た...
多の...
く...
て...
か...
ま...
あ...

そろそろがうたねの太根ツ子の根もと順安彼は例乃
踊跡の若七見物小変て居く坐んそま久踊込で大俗
盛となるといふ中ぞ野呂「ヤまてれろく」幸三妙斗くサア
ちろともよく押トんだまトんあトアトせトやトるト成トく
こめんトもト下ト服ト公トとトどトまトうト例トのト変ト形トてト備トてト来トくト
是ハ...入用ハ今トもトあトうトごト懐ト礼トのト杖トのトもト大ト小トもト金ト貝ト
かつせトまトうトもトひトびトまトのト背ト中トみト多ト杖ト美ト菜トやト大ト入ト叶トぶト
中トぞトぶトふトのトいトでト行トてト入トりトんトごトとトまトあトいトえトんトだトんトがトあトりト

中トぞトぶトせト六ト部トのト笈トもト平トのトでトまトけトれト杖ト色トがト遠ト入トルト女ト
からト山ト崎ト町トへトいトりト六ト部トのト形トりトとトおトひトどトうト備トてトこトうト
...せんトもト坂ト東トもト一トつトおトおトくトあトれトせト一トつトこトうトくトあトれトむトとト
千ト子ト親ト者トのトいトもト小トもトねトのトとトあトくト備トてト来トさトうト
「サアそれでさトまトうトたトがトあトんト不ト生トとトうトめトでもトちトろトとトあトまトらトんトけト
と付トてト並トうトトト是トよりト誓ト「サア出ト同ト公トとトおトれトハト極トのトいトあトまト居トルト
そこトへトくトアトバト公トもト同トトト是トサトアトまトのトせトんトすトもトめトくトそこトにトいトうトがト

ぬきでいハニサ 姑婆物を脊りせて町内をいッペンよ
せうがいく 辛ね小便をいごと 近中まぬうらモウ 禁めよ
アツ引いそぞく さまん目がらんごなんとなん
ぬらんといそくぬ 趣向のめぬう 何サ 飛鳥山
ぬ 箱火がらがぬらういト 服七も法をさき入ぬ
道奥のころころ。コウ今乃でハツをさきで仕組がよくハ
出うけぬう。人の出さるまでをころて入。おーくぬんせ
ツウく 誓古もあふまー 通ッころいそぞく。

出うける仕交おせう。ドレ眼公のせうをいッせナ。今ハ奇
妙く 是れ二重朱鞘の大小編笠ト。サアバ公儀とせ。
ころころ杖半りご。サアく 忌替さく 是より後うりのぬれ
一先是が 支度いっがキト 後がコウイナ 一もいさ今日ハ
めがらうく ぶらぶらぬう。おコをこれをもろいよぬご。
なんぞ青きさく へんやう 何く せんすめとて
いッぬい。イヤ 舞一舞がらるナ。眼公をさく いらて
見はくろつて来く くれぬう。あひらひぬ。とまんぞら

